

# APO Letter

2022  
Vol. **81**  
June

〈巻頭座談会〉

## ■ 多職種連携による糖尿病重症化予防

社会医療法人シマダ 嶋田病院 内科部長(糖尿病専門医) 佐賀大学医学部臨床教授

**赤司 朋之** 先生

社会医療法人シマダ 嶋田病院 看護部 糖尿病連携コーディネーター

**西岡 恵子** さん

**坂本 則子** さん



SOGO PHARMACY GROUP





Round-table Talk

# 多職種連携による 糖尿病重症化予防 巻頭座談会

# APO Letter

vol.81

## C O N T E N T S

●Round-table Talk 1

巻頭座談会  
多職種連携による  
糖尿病重症化予防

地域連携薬局紹介 9

全国に広がる  
健康サポート薬局 11

2021年度 学会発表演題紹介 13

社会医療法人シマダ 嶋田病院 内科部長(糖尿病専門医) 佐賀大学医学部臨床教授

赤司 朋之 先生  
(写真中央)

社会医療法人シマダ 嶋田病院 看護部 糖尿病連携コーディネーター

西岡 恵子 さん  
(写真左から3人目)

坂本 則子 さん  
(写真右から3人目)

福岡県小郡市に位置する社会医療法人シマダ 嶋田病院は、小郡市と三井郡大刀洗町を合わせた「小郡三井医療圏」における地域医療支援病院、在宅療養支援病院として地域医療の中核を担っています。嶋田病院に2006年、赤司朋之先生が赴任され、循環型糖尿病連携パスが開始されました。現在、連携パスには地域診療所が約60施設、そうごう薬局 大刀洗店・北野調剤薬局含め保険薬局が約30施設参加しており、保険薬局については地域の約8割が参加しています。この連携パスの大きな特徴として、連携専任の糖尿病療養指導士(連携コーディネーター)が配置されていることが挙げられます。

今回は、赤司先生、連携コーディネーターの坂本さんと西岡さんにご参加いただき、「多職種連携による糖尿病重症化予防」をテーマに座談会を開催いたしました。



小野 悠介 (司会)  
北筑後ブロック  
南筑後・佐賀ブロック  
ブロック長



水口 真一  
人財育成部 部長



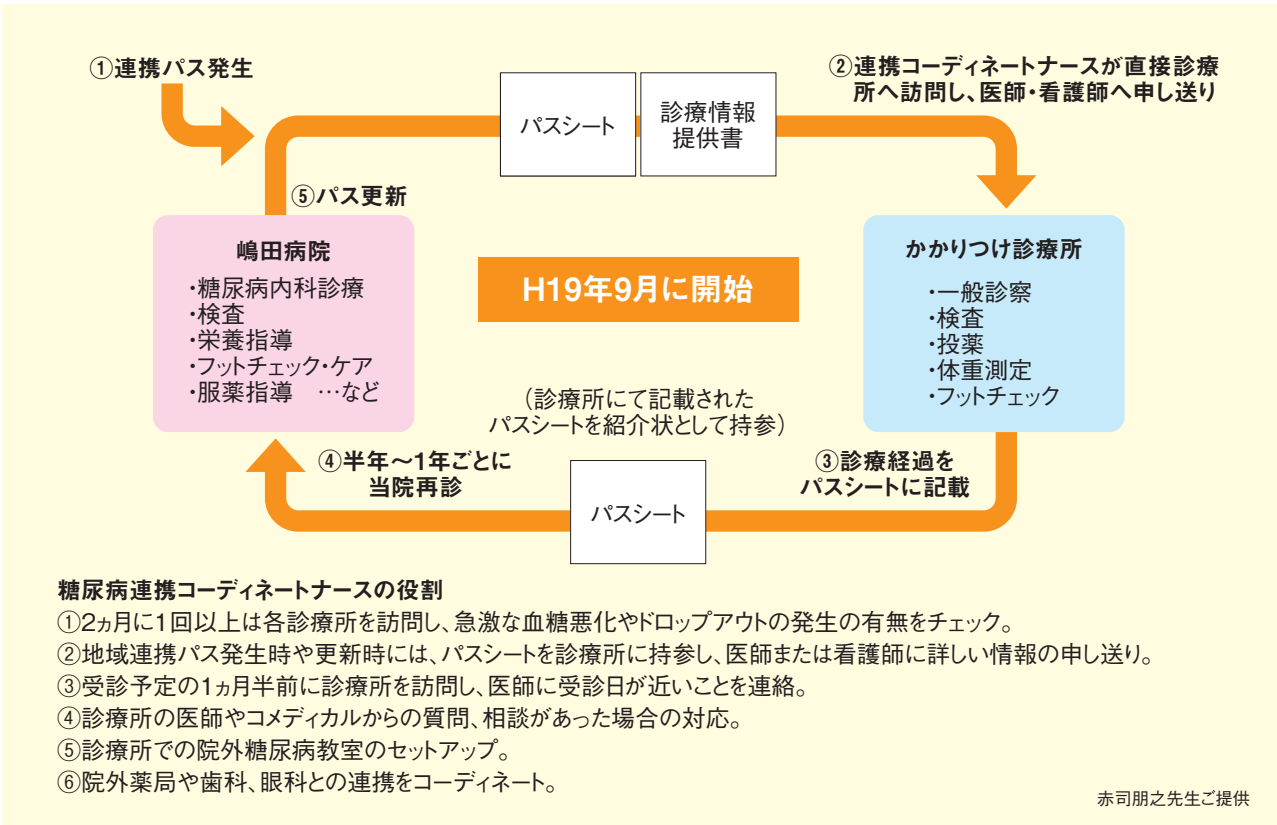
北尾 美帆  
北野調剤薬局  
専門薬剤師



山本 隼也  
そうごう薬局 大刀洗店  
薬局長



循環型糖尿病連携パス



循環型糖尿病連携パスにおける  
コーディネーター

**司会（小野）** 本日はお忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。本日は「多職種連携による糖尿病重症化予防」というテーマで座談会を開催いたします。よろしく願いいたします。まず赤司先生から連携パスを始められたきっかけについて、教えてくださいませんか。

**赤司** 私は留学していたハーバード

大学のジョスリン糖尿病センターから帰国して、2006年に嶋田病院に赴任しました。赴任当時はこの地域では糖尿病についての一般的な治療はおこなわれていたものの、例えば尿蛋白の出現が糖尿病腎症の悪化を示唆することなど、少し踏み込んだ知識が全体で共有されていませんでした。まずは病院と診療所やクリ



ニックなどの開業医の先生方との連携を強化し、知識を共有することで、地域全体として糖尿病の重症化が予防できるのではないかと感じました。

**司会** この地域の連携パスでは、連携コーディネーターの存在が大きな特徴だと思います。コーディネーターを配置することは最初から考えていらつしたのですか。

**赤司** コーディネーターナスについては、最初から必要性を感じていました。大学を卒業して初めて勤務したのが九州大学病院の総合診療部だったのですが、そこを担当していた薬剤師が非常に責任感の強い人で、退院後も患者さんのことをとても気にかけていました。その姿を見て、薬剤師や看護師などの方々にも積極的に患者さんに関わってもらうようになれば間違いなく良い医療ができるだろうと、チーム医療の重要性を感じていたことが、そもそのスタートとしてあります。そこで次の勤務先である浜の町病院に移ったときに、病棟全体で糖尿病チームを立ち上げたのですが、その時の主力メンバーが現在嶋田病院でコーディネーターナスとして勤務してもらっている坂本さんと西岡さんです。医師の相談相手として看護師は比較的気軽に声をかけやすい存在ですから、この二人にチームに加わってもらうこと

で、他科の医師も自分の患者さんについて、よく質問するようになり、さらに他の病棟の看護師も彼女たちに質問してくるようになりました。もちろんそのためには彼女たちも知識を身につけないといけないので、糖尿病関連の学会に参加するなど、積極的に勉強してもらっていました。

その後3年間の留学を経て嶋田病院に赴任してから、ある日、連携パスの勉強会に参加したのですが、そこで「大腿骨頸部骨折の連携パスがうまくいっているところは必ず良いコーディネーターがいます」という言葉がありました。その言葉を聞いた瞬間に、看護師がコーディネーターの役割をすれば、看護師の知識レベルも上がり、良い連携パスが地域全体でできると確信しました。そこで興奮冷めやらぬまま、二人に嶋田病院に来てほしいとメールを送りました。

**司会** 赤司先生からお誘いを受けて、西岡さん、坂本さんはどのようにお感じになりましたか。

**西岡** 私は当時、保健師として赤ちゃんの保健指導をしていましたが、開業の先生とお話をするハードルは高く、知識のない自分が行っても役に立たないのではないかと最初は思いました。でもお話を聞くと、症例ベースの連携パスとなっており、紹介さ



れた患者さんをお戻しすることが主な目的でした。開業の先生も自分の患者さんのことなので興味を持って聞いていただけました。また最初に連携パスの導入を決定されたときに、私たちと一緒に赤司先生がすべての連携先一軒一軒に足を運び、循環型連携パスの主旨を説明して下さった事で、顔の見える連携のベース作りができたのだと思います。私が思っていた連携のハードルよりも低く、スムーズに連携先の先生やスタッフの方々とお話しする事ができました。

**坂本** 私は当時、すでに退職していたのですが、お誘いを受けてぜひ参加したいと思いました。以前の病院では病棟勤務だったので開業の先生と関わる事がほとんどありませんでしたし、いろんな方と交流することは自分の性格としても合っていると思いました。

**司会** 現在では地域連携において、看護師に求められる能力は多岐にわたると思います。特に医師とのコミュニケーションなどに負担を感じている看護師の方々にメッセージはございますか。

**坂本** わからないこと、知らないことは正直に伝えることだと思います。特に医師との関係においては信頼が大切なので。例えば糖尿病について他科の先生から質問を受けた時に分

かることはその場で答えますが、分からないこと、不安なことは赤司先生に確認して、その日のうちに返事をする事で信頼関係を作っていくように努めています。自分自身に完璧を求めると、知識が足りないことを自分で責めてしまうので、まずは知らないことをスタートにして、分からないことは毎回確認するという



## 多職種連携による糖尿病重症化予防

## 自己管理応援シール



手帳表紙の左側に医師がHbA1cの目標値のシールを貼り、薬局では右側に低血糖リスクのシールを貼付。低血糖に関するシールには、【低血糖に要注意】【低血糖を起こす危険性の低い薬剤です】の2種類があり、患者さんが服用する薬剤に合わせて使い分けることで、患者さんは自分が服用する薬剤が低血糖を起こしやすいかどうかを判断でき、日々の療養で低血糖に注意する意識づけができる。

日本糖尿病協会より許諾を得て転載

## 糖尿病療養指導リーフレットの一例

## 塩分を摂り過ぎていませんか？

塩分の  
とり過ぎ

高血圧

- ・腎症の悪化
- ・動脈硬化の進行
- ・脳卒中や心筋梗塞のリスク増大など

【1日の塩分摂取の目標】

★健康な成人の場合

男性8g 女性7g

★高血圧治療が必要な場合

男性4g以下 女性3g以下

1食でなんと1日分の塩分の  
70％を摂る事になります！！

～ラーメン編～

※店舗によっても塩分量に差があり、大盛り  
や替え玉などした場合は塩分量が増えます。

とんかつラーメン	約5.3g
塩ラーメン	約5.5g
しょう油ラーメン	約5.5g
担担麺	約6.3g
チャーシュー麺	約6.0g
ぎょうざ(3つ)	約0.4g
ぎょうざ(5つ)	約0.7g
タレ(10g)	約1.0g
チャーハン(1人前)	約2.5g
紅しょうが(10g)	約0.7g〜1つまみ
高菜(20g)	約1.2g

「ラーメン+ぎょうざ(3つ)+チャーハン」セットで  
**なんと塩分8.1g！**（+ぎょうざのタレ1.0g）

### ◆減塩ポイント◆

- ①ラーメンのスープを残すと約2〜3gの減塩が出来ます。
- ②紅しょうがや高菜のトッピングを控えれば約2gの減塩が出来ます。

赤司朋之先生ご提供

患者さんとの会話のきっかけにもなりますし、薬剤師も病院での指導内容を理解して患者さんにお話ができるので、とても助かっています。またリーフレットに対する患者さんへの反応などは、必ずコーディネートナースにフィードバックするようにしています。

師が気になったことがある時は、次の受診日まで間に、電話によるフォローアップを行うこともありますし、最近そういえばあの患者さんの顔をみていないけど大丈夫だろうか、など気に掛けたりもします。このように、お薬をお渡しした後も、患者さんの状況を確認し、医療機関へ情報提供することも薬局ならではの役割

だと思ひます。

**赤司** 薬剤師の先生方は勉強熱心で理解力の高い方々が多いですね。加えて病院や開業医、コーデイナー、ナースと連携して患者さんに接することで、本当に患者さんの役に立っているという想いを持っているのだとて、やりがいに繋がっているのだと思います。

**山本** 連携ツールとしては、糖尿病連携手帳も活用しています。特にインスリンを使用している患者さんなどでは低血糖に注意することが必要ですので、糖尿病連携手帳の表紙に自己管理応援シールを貼って、薬物療法の状況が一目で分かるようにしています。

**司会** 薬局との連携において、コーディネーターの方々はこういった役割を担っているのでしょうか。

**西岡** 薬局からあがってくる情報を病院、かかりつけ医にお伝えすることとはもちろんですが、薬局にはさまざまなリーフレットなども作成してお渡ししています。療養指導の方法

などについても、看護師からももちろんお話しはするのですが、同じ内容を薬局でも伝えていただくことで患者さんにより浸透するという効果があると思います。リーフレットについては、2、3か月にひとつは新しいものを作りにしていますが、新しいものができるたびに薬局、かかりつけ医のみならず、歯科や眼科なども含む連携先135件の施設をすべて訪問し、説明しながら手渡しをしています。

姿勢が大切です。自分のありのまま  
でぶつかった方が信頼関係を築くこ  
とができると思います。

**赤司** あと適性として、医師に気を  
使いきるタイプではなく、医師が

気楽にコミュニケーションをとれるような性格の人が良いですね。また一人だと負荷もかかりすぎるし落ち込むこともあると思うので、絶対に二人を配置するべきだと考えました。

## 連携。パスにおける薬局の役割

**司会**　ありがとうございます。次に連携パスに薬局が参加することになった経緯について、お聞かせください。

**赤司** 薬局との連携については、当時総合メデイカルで北筑後地区のブロック長をされていた水口さんから声がけいただいたのがきっかけですね。

**水口** 嶋田病院が連携している診療所、クリニックの近辺にそうこう薬局が出店していたこともあり、薬局との連携を考えられていた赤司先生にお声がけいたしました。最初は何か始めればいいのか悩みましたが、大刀洗店に隣接するやなぎ医院での申し送り（※）に参加し、連携の現場を目の当たりにしたことで、患者さんにとってこの連携バスはとて有用であると確信し、まず赤司先生

に勉強会で講義をして下さいとお願いしました。

**赤司** 私自身、薬局との連携は大切だと考えておりましたので、糖尿病の病態を伝えること、病院と診療所で使っていた糖尿病の知識や療養指導などのリーフレットを薬局にも配布することで、より地域の底上げができると思いました。

**水口** 私は当社だけでなく、地域で広く取り組んでいきたいという思いがありました。私自身それまでさまざまな地域で勤務してきましたが、そういう薬局のように全国に展開する薬局が、地域における薬業連携の一端を担う例は少なく、経験値もありませんでしたので、地域の薬剤師会に相談したのですが、そこで快く協力を頂けることとなったことで、前に進むことができました。また薬

で、「小郡七夕葉葉ネットワーク連

絡会」(※※)という勉強会も立ち上げる事ができました。

今回は赤司先生をはじめとして、開業の先生方、コーディネータースのお二人、そして我々薬局が薬剤師会の協力を頂けたこと、という環境がそろって素晴らしい連携のかたちでできました。

**赤司** とこの地域にもそういった想  
いを持った人はいれると思います。そ  
の人が声を上げて周りの人たちを少  
しずつ巻き込んでいくことが大切で、  
やはり何とかしたいという、強い気  
持ちがないと何事も前には進まな  
いですね。またその時に大切なことは、  
目先の利益にとらわれてはいけない  
ということです。コーディネーター  
スが診療所を訪問する活動も、それ  
を元が取れないといって止めるので  
はなく、将来的な利益に繋がると信  
じて続けています。

**司会** ありがとうございます。次に赤司先生が連携バスにおいて、薬局に期待されることについて、お聞かせください。

**赤司** 院外処方の患者さんであれば、必ず薬局を訪れます。そこで薬剤師の先生とお話をする機会があるので、薬のことだけではなくプラスアルファのメッセージまで患者さんに伝



※申し送り：糖尿病連携コーディネーターが診療所を訪問しておこう情報提供活動。診療情報提供書を診療所に直接持参し、検査の必要性や治療薬選択の理由などを説明する。  
※※小郡七葉薬ネットワーク連絡会：久留米三井薬師会と嶋田病院、そうこう薬局とが合同で立ち上げた、主に薬剤師向けの勉強会。赤司先生による講義や、コーディネーターによる療養指導リフレットの解説などがおこなわれている。



# 座談会を終えて



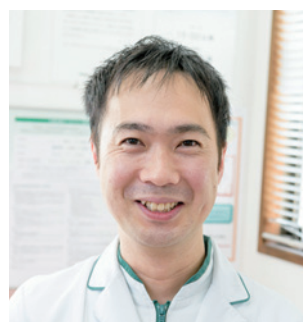
北野調剤薬局  
専門薬剤師  
糖尿病療養指導士  
北尾 美帆

私は2010年にそうごう薬局 大刀洗店勤務となったのですが、その際に当時のエリアマネージャーであった水口部長と一緒に「小郡七ヶ葉薬ネットワーク連絡会」を立ち上げました。座談会の中でお話がありましたが、ネットワークの立ち上げにあたってはやはり、薬剤師会のご協力をいただけたことが大きかったと思います。連携に参画し、嶋田病院のスタッフと一緒に患者ケアを行うようになり、患者さんと深く関わる機会が増えたことで、もっと自分も糖尿病療養指導に関わりたいという思いが強くなり、2014年に地域糖尿病療養指導士の資格を取得しました。

患者さんの療養指導では、一人ひとりのライフスタイルがあるので、お話をしながら、その方にとって最も良い方法を、患者さんと一緒に探すようにしています。

赤司先生を中心として素晴らしい連携が出来ているので、今後はこれを継続、発展させることを考えないといけないと思っています。ひとりの薬剤師が対応できる患者さんの数は限られるので、これから更に薬局薬剤師から糖尿病療養指導士が誕生し、一人でも多くの仲間を増やすことができればいいですね。

北野調剤薬局  
福岡県久留米市北野町今山516-13  
TEL：0942-23-1027  
FAX：0942-23-1028  
(開局日)  
月～土(祝日を除く)  
(開局時間)  
月～水・金・土 9:00～18:00  
木 9:00～17:00



そうごう薬局 大刀洗店  
薬局長  
糖尿病療養指導士  
山本 隼也

私は2014年からそうごう薬局 大刀洗店に勤務しており、現在は小郡七ヶ葉薬ネットワーク連絡会の世話人として、勉強会での赤司先生の講義内容のご相談や案内書類の作成、当日の準備などを担当しています。コロナの影響でWebでの開催となっていますが、毎回100名程度で参加いただいています。

隣接する医院での申し送りには可能な限り参加し、服薬状況だけでなく患者さんのご家庭での様子や食事内容、ご家族のことなど、薬局ならではの情報を提供するようにしています。

薬局に来局される患者さんは高齢者も多く、独居の方や認知症を併発している方もいらっしゃいます。そのような中で糖尿病に限らず、地域として一定のクオリティで患者さんのフォローアップができるような体制を作っていきます。また治療だけではなく、健康サポート薬局として薬局がもっと外に出て、健康に対する意識づけや情報発信をし、地域から必要とされ、頼りにされる存在を目指します。

そうごう薬局 大刀洗店  
福岡県三井郡大刀洗町下高橋3957-1  
TEL：0942-77-1025  
FAX：0942-77-1065  
(開局日)  
月～土(祝日を除く)  
(開局時間)  
月～金 9:00～18:00  
土 9:00～13:00



**司会** 最後に、それぞれのお立場で現在の課題や今後の抱負などについて、お聞かせください。

## 今後の抱負

**坂本** ご高齢の糖尿病患者さんが増えてきており、退院後に高齢者施設に戻っていただく患者さんも多いのですが、そういった施設はまだ訪問できていないところがたくさんあります。私たちが相談窓口として機能することで、受け入れる側(施設)の不安を少しでも減らせるのではないかと思います。

**赤司** 在宅や施設などでの高齢者の治療を考えると、今のままでは医療資源はどうしても足りなくなってくるので、高齢者施設も含めた底上げを地域として真剣に考える必要がありますね。

**司会** 薬剤師としても高齢の患者さんの糖尿病指導については、服薬指導や服薬管理などの面で課題がたくさんあると感じています。

**西岡** 付け加えると、せっかくこんなに素晴らしい連携のかたちが出来上がっているのに、これを継続させることを考えないといけないですね。具体的には私たちの後任を育て、10年20年後も継続しているシステムとすることが必要だと思います。

**北尾** それは私たち薬剤師の立場で

も同じです。質を担保しながら一人でも多くの患者さんの療養支援ができるように、糖尿病療養指導士の資格取得も支援して、一緒に連携ができる仲間を増やしたいと考えています。

**山本** そうごう薬局 大刀洗店、北野調剤薬局は健康サポート薬局としても認定を受けていますので、糖尿病の治療だけではなく、予防も含めて情報発信を続けて、地域の皆さまの健康に総合的に貢献できるような薬局になっていきたいと思います。

**赤司** 現在多くの地域で糖尿病治療において、病診連携、薬薬連携がこなわれていますが、それがフローチャートで終わってはいけないうると思っています。フローチャートは動かさないと意味がない。それを動かすのは、今日ここに集まってもらった坂本さんや西岡さん、それに水口さんや北尾さん、山本さんのように熱い思いを持った人だと思っています。そういった人たちがしっかりと顔の見える関係の中で連携することで、本当の意味で有用な連携ができると思っています。

**水口** 赤司先生、坂本さん、西岡さん、本日はどうもありがとうございます。今日は総合メデイカルは全国で薬局を展開しておりますので、この素晴らしい取り組みを今後はぜひ、先生方

## 〈プロフィール〉



赤司 朋之 先生  
(あかし ともゆぎ)

平成3年：九州大学医学部卒業  
平成7年：九州大学総合診療部医員  
平成8年：九州大学第一内科医員  
平成9年：国家公務員共済組合連合会 浜の町病院  
平成15年：ハーバード大学ジョスリン糖尿病センターに留学  
平成18年4月から嶋田病院に勤務し現在は内科部長  
平成24年9月から佐賀大学医学部臨床教授併任  
日本糖尿病学会専門医・指導医、日本糖尿病協会医療者教育委員、グッス編集委員、福岡県糖尿病協会常任理事、筑後糖尿病療養指導士会教育委員長、第4回日本糖尿病協会ウィリアム・カレン賞受賞(平成28年)

(この座談会は感染対策に十分に注意を図り、2022年3月に開催されました)

のお力をお借りしながら、全国にも広げるお手伝いをしていきます。  
**司会** 本日はどうも、ありがとうございます。



## 隣接する2薬局で機能を相互補完し、月間約5,000枚の処方箋に対応 そうごう薬局 西国分寺駅前店・西国分寺店



西国分寺店  
薬局長 矢口 愛美

西国分寺駅前店  
管理薬剤師 若松 真里



そうごう薬局 西国分寺駅前店  
東京都 国分寺市泉町2丁目9-3 泉ビル102号  
TEL : 042-328-0801  
FAX : 042-328-0802  
(開局日) 月～土(祝日を除く)  
(開局時間) 月・火・木・金 9:00～19:30  
水 9:00～19:00  
土 9:00～14:00



そうごう薬局 西国分寺店  
東京都 国分寺市泉町2丁目9-1  
西国分寺ライフタワー1階  
TEL : 042-321-8201  
FAX : 042-321-8202  
(開局日) 月・火・木～土(祝日を除く)  
(開局時間) 月・火・木・金 9:00～17:00  
土 9:00～16:00

### 2つの薬局のメリットを最大限に生かし、 患者さんと地域医療機関の ニーズに応えたい

そうごう薬局 西国分寺駅前店(以下、駅前店)は、総合メディカルグループが東日本に出店を始めた当初にできた薬局で、医療モールからの処方箋を中心に応需しています。現在は隣接する西国分寺店と合わせて月間約5,000枚の処方箋を応需していますが、うち約4,000枚が駅前店での処方箋となります。この枚数を駅前店のみで対応しようとすると、どうしても患者さんを待たせてしまったり、またスペースの都合でベビーカーや車いすで訪れる患者さんにご不便をかけてしまうこともあるため、比較的待合室も広い西国分寺店と連携して対応しています。現在はクラウド型電子薬歴Musubi(カケハシ社)が導入されていますので、どちらの薬局でも同様に処方、服薬指導が可能となっています。

また、駅前店は健康サポート薬局としても認定を受けていますが、測定機器などを使用したイベントの場合には、やはりスペースが足りなくなるので、西国分寺店と共同で開催する等しています。



そうごう薬局 西国分寺駅前店が  
1階に入居する医療モール

今回は駅前店が地域連携薬局としての認定を受けることができましたが、西国分寺駅の近くには多摩地域の広域基幹病院である多摩総合医療センターがあり、**患者さんの入院時に主処方元の医師と連携して医師と薬局の連名**



そうごう薬局  
西国分寺駅前店  
主任薬局長(取材当時)  
(現、青森ブロックブロック長)  
吉田圭太

で紹介状を提出するなど、もともと地域の開業医、病院と連携した取り組みを続けてきていました。退院時カンファレンスへの参加などはコロナ禍で難しい面もありますが、メディカルケアステーション(エンブレス社)などの電子コミュニケーションツールを利用した連携は現在も続けています。

多摩総合医療センターとの連携を始めるきっかけとなったのは、病院が開催した研修会への参加でした。当時は処方元との連携はできていたものの、処方箋を介さない中で、このような大きな施設との連携をどう始めればいいのか分からずにいましたが、研修会に参加した際に、**講師の薬剤科長に思い切ってお声がけし、その後も何度かこちらからメールで連絡を取らせていただいたところ、病院としても地域の薬局と連携したいというニーズがあることが分かりました。**その後はこのような研修会にも定期的に参加し、顔の見える関係を築いています。

また、多摩総合医療センターにはがんの患者さんもたくさんいらっしゃいます。駅前店は現在、健康サポート薬局、地域連携薬局の認定を受けていますが、**今後は専門医療機関連携薬局の認定も取り、病気の予防からがんも含めた専門的な治療まで、患者さんのすべての健康に携わることを目指しています。**そのためには1薬局のみでは難しい面もありますが、ここでは西国分寺店も隣接していますので、互いのメリットを活かしながら患者さん、医療機関のニーズに総合的に応えています。

2021年8月より「地域連携薬局」と「専門医療機関連携薬局」の認定制度がスタートしました。総合メディカルグループでは、2022年6月現在、181薬局が地域連携薬局認定を受け、地域の医療機関や他の薬局との連携を進めています。今回は地域連携薬局として活動する、そうごう薬局 新倉敷店と、そうごう薬局 西国分寺駅前店をご紹介します。

※地域連携薬局：入退院時や在宅医療において、他の医療提供施設と連携して対応できる薬局

## 顔の見える関係を築き、多職種連携を推進 そうごう薬局 新倉敷店



そうごう薬局 新倉敷店  
岡山県 倉敷市玉島上成539-7  
TEL : 086-523-1151  
FAX : 086-523-1152  
(開局日) 月～土(祝日を除く)  
(開局時間) 月～土 9:00～19:00

### 医療者として患者さんに寄り添い、 その気持ちを代弁することで スムーズな連携に繋がる

そうごう薬局 新倉敷店では、月間約2,300枚の処方箋を応需しています。2021年11月に地域連携薬局の認定を取得し、連携先は渡辺胃腸科外科病院、玉島中央病院、玉島協同病院、倉敷中央病院、岡山大学病院と、地域のクリニックなどです。特に倉敷市玉島地区においては、薬剤師会のメンバーに病院薬剤師の先生もいらっしゃることもあり、以前より病院と薬局との連携が緊密におこなわれていました。倉敷地区では倉敷中央病院が主体となって、地域の薬局との連携を進めていました。また、健康サポート薬局としても届出を受理されており、これまでにコロナ禍での不安の解消、血圧の正しい測り方、手洗い講座、フレイル予防など、毎回テーマを決めて講義形式の勉強会を開催しています。**その活動は薬局内にとどまらず、公民館などでも実施しており、先日は地元のケーブルテレビで取り上げられました。**

地域連携においては以前より連携ができていたこともあり、**病院からの情報などはいただけるのですが、その時に薬剤師としてどう動かが重要です。**例えば心不全の増悪で入院していた患者さんが退院の際に病院から情報を得たのですが、その後のケアの状態を確認するために訪問、心不全手帳の書き方やリハビリについての助言をおこなったこともあります。在宅においては、通院できている人の場合には受診の1週間前に訪



そうごう薬局  
新倉敷店  
専門薬剤師  
岡野泰子



そうごう薬局  
新倉敷店  
薬局長  
宮本慶子

問し患者さんの希望や状態を医師にレポートとして提出するなど、きめの細かい活動もおこなっています。

また、ポリファーマシーなど患者さんの不利益が考えられるような処方の場合、**薬剤師としては患者さんの気持ちをよく理解して、病院、クリニックの医師に対して患者さんの気持ちを代弁することが何より大切だと思います。**患者さんのことで困ったことがあれば、医師にそのまま困りごととして伝える方が同じ医療人として共感が得やすいので、そこは臆せずに踏み込むようにしています。そういった面ではレポートの書き方なども、今後トレーニングが必要だと感じています。

その他の取り組みとしては、病院との連携にとどまらず、地域の薬局との連携も進めています。例えば施設に入居している患者さんが他の施設に移ることになった場合には、移動先施設の近隣薬局に患者さんの情報を提供しますが、こういったことも**薬剤師会において日頃から顔の見える関係値を作っていることが大きく寄与しています。**

今後は、このような関係を地域全体にさらに広げること、新倉敷店では、がん患者の処方箋応需も多いため、**地域の病院と専門性の高い連携をおこない、専門医療機関連携薬局の認定を目指します。**



## そうごう薬局 西宮原店

大阪府大阪市淀川区西宮原3丁目3-98

### オール薬剤師 禁煙ひと声運動

2021年10月17日～10月23日 開催

「禁煙支援」への取り組みとして、オール薬剤師による禁煙ひと声運動を実施しました。

大阪府薬剤師会より提供いただいた「オール薬剤師 禁煙ひと声運動記録票」をもとに、喉や胃の不調を訴える方や、痰が絡む方、ご家族で喫煙されている方などに対してひと声かけて、禁煙をサポートするプログラムやチラシなどを紹介しました。

禁煙をすることでの節約効果を数値でお示すると興味を示される方も多く、「やってみようかな」と前向きに検討される方もいらっしゃいました。

近隣で禁煙外来を実施する医院も多くあるため、今後も協力しながら禁煙のフォローによる健康増進を進めていきます。



## そうごう薬局 本宮店

福島県 本宮市本宮字南町裡117-3

### 健康いきいきステーション ～電話相談会～

2021年11月27日 開催

そうごう薬局 本宮店では、「健康サポート薬局」「かかりつけ薬局」として地域の皆さまの健康をサポートする目的で、毎月、薬剤師による健康相談会を実施しています。

事前にチラシにてご案内し、当日はOTC・サプリメントの飲み合わせや、コロナワクチンの検査キット、ご自身の疾患に対する食事指導について等のご相談がありました。

お電話をいただいた方からは、「直接薬局に行くと他の人の目が気になったり、時間に限りがあるのでなかなか質問することができなかったが、電話で相談を聞いてもらえるとそのような問題が解決されるので、とても相談しやすかった。またよろしくね。」とお言葉をいただきました。



# 全国に広がる 健康サポート薬局

取り組みの一部を  
ご紹介します



健康サポート薬局とは、かかりつけ薬剤師・薬局の機能に加えて、健康サポート機能として、市販薬や健康食品に関することはもちろん、介護や食事・栄養摂取に関することまで気軽に相談できる薬局のこと。

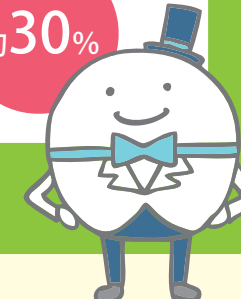
日本全体では2021年6月末時点で2,608薬局が健康サポート薬局として届出されていますが、これは総薬局数の約4.3%です。そうごう薬局グループでは、2022年6月1日現在で健康サポート薬局数が216店舗に達し、グループ薬局全体の約30%を占めています。

今後も全国の薬局で、地域の皆さまの健康サポートや健康増進につながるような取り組みを続けていきます。

そうごう薬局グループの  
健康サポート薬局数  
(2022年6月1日現在)

216 店舗  
744 店舗中

約30%



## そうごう薬局 今福つるみ店

大阪府大阪市城東区今福東1丁目13-8

### 栄養ケアサポート講演会 ～低栄養の予防～

2020年11月6日 開催

そうごう薬局 今福つるみ店は栄養ケアサポート薬局として登録があり、地域包括支援センターと共同で栄養ケアサポート講演会を開催しました。

フレイルにならないように、健康寿命を延ばすためには低栄養の予防が大切です。そのためには、バランスの良い食生活とともにタンパク質をしっかり摂る必要があります。このバランスの良い食事について、クイズもおり交ぜながら講義しました。

講義後には皆さんから多くの質問をいただき、日常の食事を改善する意欲が伝わってきました。



## 妊娠・授乳期の薬物療法に貢献する薬局づくりを目指して

2021年11月6日～7日 第15回日本薬局学会学術総会 | ポスター発表



### 妊娠・授乳期の薬物治療や聴取に対する 女性来局者と薬剤師の認識調査

総合メディカル・ファーマシー中部株式会社  
ハロー薬局 みわ店 (愛知県) **木下仁美**

#### 発表概要

妊娠・授乳期の女性の薬物治療には、胎児・乳児への影響など、積極的な薬剤師の介入が求められる。そこで、薬剤師145名と18～40歳女性患者を対象にアンケートを実施。妊娠・授乳有無の聴取に対する抵抗感、薬物治療への不安について調査し、双方の認識の違いを明らかにして今後の薬剤師の関わり方について検討した。

調査の結果、薬剤師は「聴取されることに女性は抵抗を感じているのではないか(72%)」と回答した一方で、来局する女性の95%が「聴取に抵抗ない・あまりない」と回答。聞かれた方が答えやすいという声もあった。また、市販薬の使用について90%の女性が不安を感じるのと事だった。

このことから、薬剤師は抵抗感にとらわれず、妊娠・授乳状況を聴取し、市販薬を含めた薬物治療の安全性に貢献するなど、不安解消に努めることが必要である。

#### 発表者インタビュー

きっかけは、愛知県薬剤師会において「妊娠・授乳サポート薬剤師」を養成しており、その役割の重要性を感じたからです。そして妊婦や授乳婦が抱える不安や悩みに対し、そもそも薬剤師の関わり方は適切なのか振り返り考えたいと思いました。

今回の結果を踏まえ、妊婦・授乳婦が安心して薬物治療を継続できる環境づくりのための取り組みを検討しています。

## 腎機能障害患者の薬物療法に貢献する薬局づくりを目指して

2021年11月6日～7日 第15回日本腎臓病薬物療法学会 学術集会・総会2021 | 口頭発表



### 薬局におけるレニンアンジオテンシン系阻害薬、利尿剤、 NSAIDs の3剤併用 (Triple Whammy) に関する NSAIDs の使用実態調査

総合メディカル株式会社  
そうごう薬局 西冠店 (大阪府) **福井 章人**

#### 発表概要

高齢者やCKD患者へのレニンアンジオテンシン系阻害薬(以下RASI)・利尿薬・NSAIDsの3剤併用は急性腎障害発症リスクを高めることが報告されている。そこで、8ヶ月間12店舗において、RASI・利尿剤の2剤を30日以上併用していた患者さんの薬歴から、複数診療やOTCを含めた3剤併用の背景について検討した。

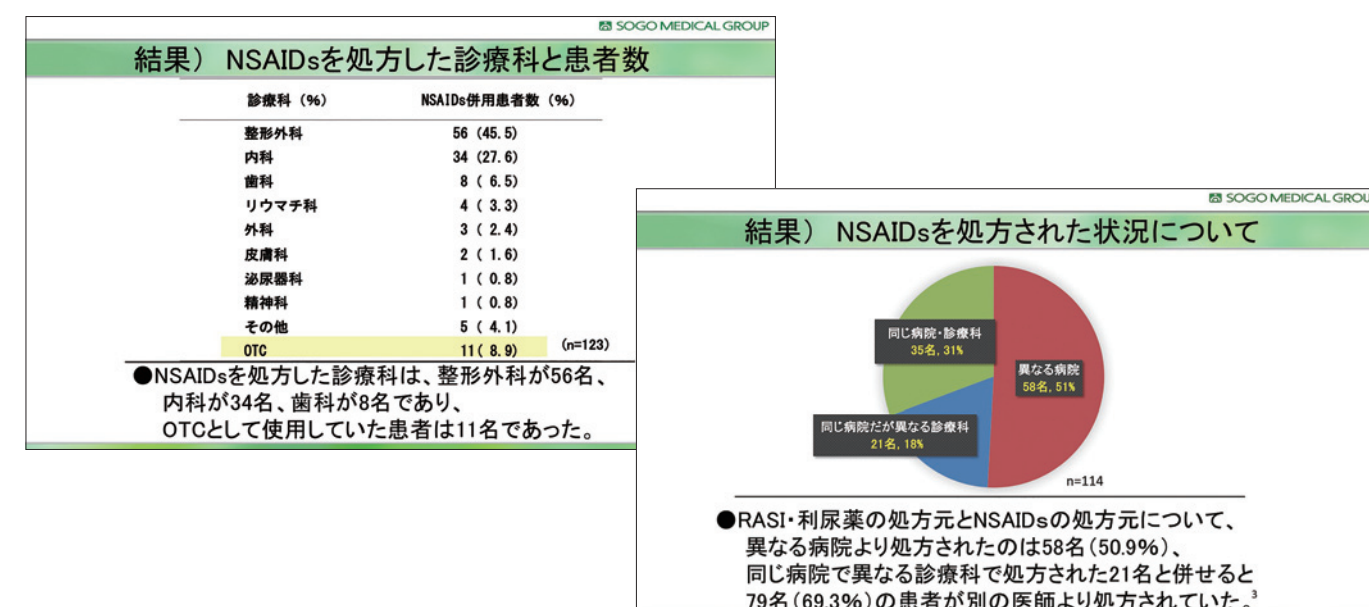
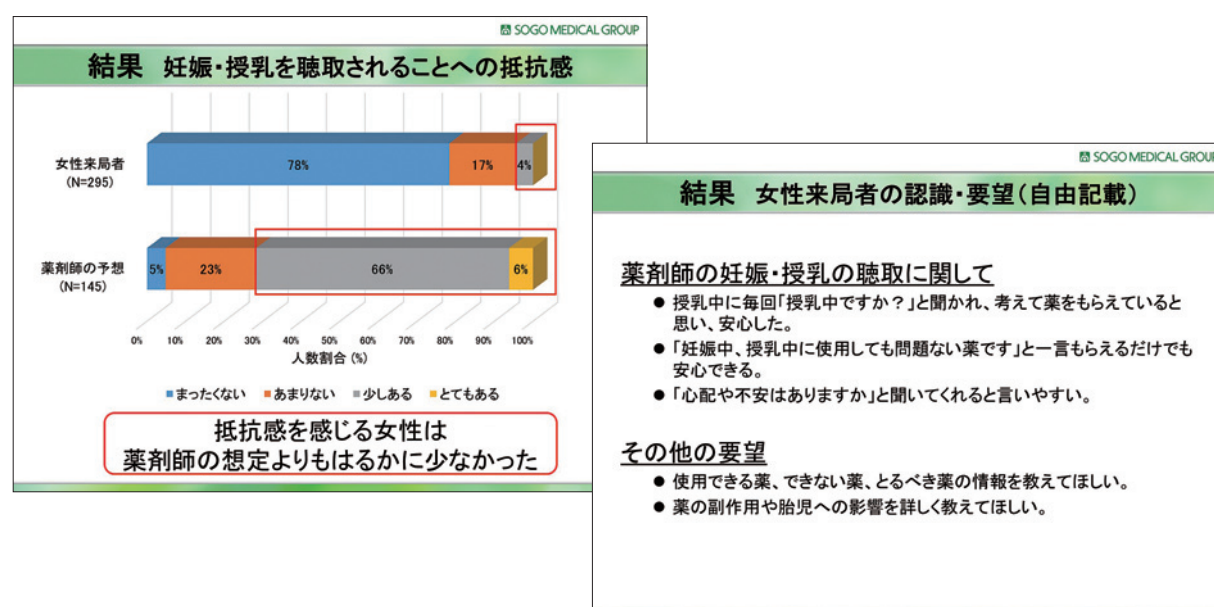
来局者51,355名のうち、RASI・利尿剤の2剤併用411名、うちNSAIDs併用は123名であった。NSAIDsが2剤と異なる医師により処方されたのは79名、同一の医師35名、OTC購入での併用は11名であった。一方で、薬剤師の腎機能評価については2剤併用患者411名のうち131名(32%)に留まっていたことも分かった。

このことから、2剤併用患者には、短期間でもNSAIDsが併用される可能性に注意し、医師とそのリスクについて事前に共有することが重要である。

#### 発表者インタビュー

今回は、応需先の病院薬剤部長と「研究を介した連携」についてご相談した際、「腎障害患者のNSAIDs対応に苦慮している」との話を頂いたことがきっかけでした。研究のタネを一から考えるのは大変ですが、病院で行われている研究テーマを薬局に置きかえてみると新たな可能性が広がることを実感しました。

今回は取り組み前の調査研究ですので、得られた結果から次にどのように取り組むべきかを検討して参ります。





## vol.81

2022年6月発行 発行／総合メディカル株式会社  
〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神 2-14-8  
薬局事業本部 TEL：092-713-7061

